



# 02 最先端研究に携わる人たち

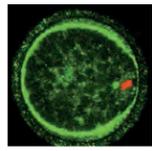


桜美林大学や玉川大学、相模原市の麻布大学などの研究室には町田市在住の研究開発者が大勢いる。そこでは様々なジャンルで最先端の研究開発が行われ、既に成果を上げていくスペシャリスト、そしてその先に続くさらなる高みを目指す新進気鋭の研究開発者が日々奮闘している。新たなイノベーションに向けたあくなき挑戦にこれからも注目したい。

麻布大学 獣医学部教授  
**柏崎 直己**  
Naomi Kashizaki



動物繁殖学研究室で生殖工学、遺伝子改変動物の作出、生殖系列細胞(精子・卵・胚)の超低温保存が専門。これまでに凍結したフタ胚からの産子作出、胚盤胞注入操作によるキメラマタの作出、凍結保存したラット精子の人工授精による産子作出など、世界初の成功を報告した。日本学会会議食料科学委員会連携会員。本町田に40年以上居住。



蛍光顕微鏡で捉えたラットの未受精卵

麻布大学 生命・環境科学部教授  
**守口 徹**  
Tom Moriyoshi



脂質栄養学、行動薬理学、食品機能学が専門。米国立衛生研究所で脂肪酸と脳機能について研究を行い、2008年より現職。天然物や食材中の栄養成分の有用性を妊娠・胎児期、乳幼児期、成熟期、老年期それぞれのステージ別に研究している。日本脂質栄養学会 副理事長。高ヶ坂に在住。



えこま油の研究はNHKの「カッテン」でも話題に

桜美林大学 准教授  
**来代 誠仁**  
Akihito Kitadai



パターン認識・画像処理といった情報技術を人文学や教育分野で活用する研究を行い、2016年に開発した古文書字形の評価技術は東大史料編纂所と奈良文化財研究所が公開する「MOJIZO」で活用されている。視覚障がいを持つ学生がコンピュータを学ぶための教材や教授法の開発も行っている。



英語や中国語ハンダール語にも対応している「MOJIZO」

麻布大学 獣医学部教授  
**坂田 亮一**  
Ryouchi Sakata



食肉製品の発色や加工技術に関する教育研究、人の心理と食肉摂取の関係、高齢者向けのソフトな食肉調理品の開発など、健康面からの食肉の果たす役割を調べている。最近では野生動物肉の加工技術にも取り組む。町田市に37年在住、現在は小山町に居住している。



ドイツの国際ハムソーセージコンクールでゲスト審査員を務めるなど幅広い活動も行っている

麻布大学 獣医学部講師  
**松井 久実**  
Kumi Matsui



コロナイドによる動物の体色形成メカニズム、動物の毒の生態学的機能、化学物質が水生生物に及ぼす影響評価などを研究テーマとする。オオサキショウウオの繁殖に関わるホルモンなど生理現象を獣医学的見地から研究。玉川学園に在住。



両生類保全に活用できる生理学的研究を目指す

玉川大学 農学部教授  
**水野 宗衛**  
Soe Mizuno



専門は果樹園芸学。温帯果樹(ナシ・スモモ・カンキョウなど)と熱帯果樹(マンゴー・パッションフルーツ・アボカドなど)の受粉効率化や高品質果実生産の研究、果樹生産技術の開発等を行っている。NHKの情報番組ではアボカドの選び方や保存方法を解説、果実に関する第一人者でもある。



パッションフルーツへのミツバチの訪花

# 03 明日の発明家たち



実用新案登録された「clean&easy」は近藤董さん(鶴川四小→南多摩中)の作品

**世界最高齢の現役パイロット**  
Guinness holder  
**高橋 淳**  
Jun Takahashi

1922年、東京都生まれ。町田に18年から住んでいる高橋淳さんは現在96歳。今でも毎週日曜日には静岡県富士川滑走場でフライングや小型機の教官として操縦桿を握る世界最高齢の現役パイロットだ。1941年甲種飛行予科練習生として海軍に入隊。一式陸上攻撃機のパイロットとして従軍、終戦の知らせは鹿児島から北海道の美幌航空隊へ向かう途中で聞いた。戦後は小型機のパイロットとして航空測量、写真撮影等を行い、49歳で独立。国際航空連盟のポルティサン・エ、国土交通大臣賞、厚生労働大臣賞など受賞多数。『過信せず、常に余裕を持って80%の力で臨むのが僕のスタイル。100歳になっても大空を飛んでいたいね。』『飛行機の神様』と呼ばれるスペシャリスト。戦禍を生きた華やかな技術は今でも健在だという。



太平洋戦争ではマレー沖からニューギニア方面サイパン、テニアンなどで戦った。出撃した多くの仲間が戻って来なかった激戦区を生き抜いた

## 町田市少年少女発明クラブ

Machida City Boys and Girls Invention Club

全国210の同組織の中でも全国レベルのコンテストへ入選者を数多く輩出するなど、町田市少年少女発明クラブの実績は群を抜いている。内閣総理大臣賞、文部科学大臣賞、特許庁長官賞のほか、発明特許権・

実用新案権を複数取得。「青少年世界工夫展」にも日本代表を多数送り込んでいる。2012年にリケンテクノスから発売された「クラブもどりま線」は当時小学校5年生だった中野結菜さんのアイデアで、会員の発明が実際に形になったのは全国でまだ一例だけだ。全国チャレンジ創造コンテストでは9年連続金メダルという偉業を成し遂げた。大人顔負けの発想力でたくさんアイデアが町田から生み出されている。



発明協会発行「少年少女発明クラブ」ニュース275号から転載

1. 会長の康井義明氏(東海大学名誉教授をはじめ多くの学識者や大手メーカーの技術者などボランティア陣営の顔ぶれも実に豪華) 2. アイデアが商品化された中野結菜さん 3. 今年1月に開催されたアイデアものつくり展で大賞に輝いた「マルチベットポトルホルダー」を作った富取修太朗くん(町田小)と康井会長

大規模生くん(金井小)金井中は2017年、全日本学生発明展で初の内閣総理大臣賞、表彰式で皇太子ご夫妻に作品説明を行った



RESEARCHERS



※大会名は一部省略した表記をしている場合があります